

令和3年1月定例教育委員会会議録

1. 開催日時 : 令和3年1月27日(水) 9時00分から10時08分まで
2. 会場 : 白杵市役所 白杵庁舎1階 大会議室

3. 出席委員 : 教育長 安東 雅幸
教育長職務代理者 神田 岳委 (欠席)
委員 渡辺 義弘
委員 村上 睦美
委員 佐藤 寛倫

4. 出席職員 : 教育次長兼教育総務課長 甲斐 尊
社会教育課長 川辺 宏一郎
文化・文化財課長 後藤 昌二郎
学校給食課長 安東 信二
教育総務課総括課長代理 麻生 幸誠
学校教育課課長代理 岩崎 努
文化・文化財課総括課長代理 神田 高士
文化・文化財課課長代理 東 貴則
学校給食課総括課長代理 阿南 哲也
学校教育課指導主事 足立 和寛
教育総務課主査 米木 淳子
教育総務課主任 加藤 由梨花

5. 傍聴人 : 大塚 佳代

1. 開会宣言

(事務局)

開会に先立ち、本日の出席者の報告を行います。本日、欠席者1名で、出席者が過半数に達しましたので、白杵市教育委員会会議規則第3条の規定により本会は成立となりました。以上、報告いたします。

(教育長)

開会に先立ち、ここで事前に皆様にお諮りいたします。本日の委員会について、1名の方から会議を傍聴したいという申し出があります。傍聴に関しては、臼杵市教育委員会会議傍聴規則第2条の規定により、どなたでも教育長の許可を受ければ傍聴できることになっています。傍聴は教育長の許可制ですが、教育委員の皆様の了解があれば許可するというようにしたいと思います。いかがでしょうか。

(委員 許可)

(教育長)

それでは、傍聴を許可することにいたします。

(傍聴者 入場)

(教育長)

これより臼杵市教育委員会、令和3年1月定例会を開催いたします。本日の委員会の会期は本日限りといたします。次に、会議録署名委員に、村上委員と佐藤委員の2名を指名いたします。

ここで、いつもは非公開の項目についてお諮りをいたすところですが、今回、非公開の項目はございませんので、その旨、報告をいたします。

2. 教育長報告

(教育長)

令和2年度1月行事予定をお配りしておりますのでご覧ください。新しい年が始まって、新型コロナウイルス感染症の拡大にブレーキがかからず、学校現場もいよいよ高校入試等々が始まる時期になりましたので、昨日も教頭会を開きましたが、一層の感染防止対策をお願いしたところであります。4日、仕事始め式を行いました。学校現場は、8日の金曜日が始業式でありました。同日、地方教育行政功労者表彰式が県庁でありまして、斎藤前教育長が功労者として表彰されたところであります。10日、社会教育課が担当であります。令和3年成人式を開催いたしました。ご案内の通り、12月24日にリモート開催という決定をいたしました。本年、成人式については、大分県の全市町村、延期もしくはリモート開催ということであります。臼杵市の判断としては、延期してもいつできるか分からないという事と、実行委員と一緒に会場で開催できない場合はリモートでという方向性でやっておりました。12日、今年最初の校長所長会を開催いたしました。14日、例年行っている小学校3年生

以上の臼杵市基礎基本テストを実施いたしました。この目的は、本年度の学習の定着状況を臼杵独自として確認をして、学び残しゼロに向け、年度内で教育課程を完結するという意味であります。結果については、2月10日前後には届きそうですので、次回の教育委員会ではその結果の報告ができると思っています。19日から3日間かけて校長の人事ヒアリングをさせていただきました。各学校の先生方の人事の希望等を丁寧に聞かせていただきました。いよいよ、来年度の人事が始まりますので、先生方の状況も確認しながら順次進めていきたいというふうに思っています。19日、私立高校の推薦入試がありました。本年度は文理大附属高校が早目の前の週に入試をいたしましたので、文理大付属高校を除いて県下全ての私立高校での推薦入試がこの日に行われました。無事、受験生全員元気に受験をして帰ってきたという報告をいただいています。それから、一昨日、第3回市町村教育長会議と第2回教育情報化推進本部会議がソレイユで開催されました。来年度の予算関係や事業関係の報告がありました。主なものについては、働き方改革の一環として1年単位の變形労働時間制を県教委も適用していくということで、今後、議会と教育委員会の承認を経て、4月1日から適用ができるような法整備をしていきたいという教育人事課のお話がありました。それから、新聞等でも広報されていますが、自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例の制定ということで、県立高校生、私立高校も含めて、通学の時にヘルメットを着用するような義務が発生します。自転車安全保険にも入るようになります。現在、小・中学校、特に中学校は自転車通学についてはもうヘルメットの着用をしていますし、安全保険についても加入していますので、一層の促進をしていきたいと思えます。あとは、当初予算の件ですと、GIGAスクールの関係で、特に来年度については先生方の研修をしっかりとやっていきたいというような教育改革・企画課と義務教育課のお話がありました。また、来年度は英語指導力の向上に重きを置いていくというようなこともお話にありました。これに連動して、臼杵市も対応していきたいというふうに思っています。昨日、教頭研修会が開催されました。本日、教育委員会ですて、午後は人権同和教育研究大会が野津と臼杵の会場で行われますので先生方がそちらに参加をされます。私も参加いたします。それから、明日は10時から臨時議会がございます。その日の午後、体力向上会議があります。以上で教育長報告を終わりたいと思えます。質疑等ございましたらよろしくお願ひします。

(佐藤委員)

1月の時点で、卒業式と入学式の規模の方向性は決まっているのですか。

(教育長)

先日、校長会でもその質問が出ました。学校行事については、学校長の判断でというのが基本ですが、本年度はコロナのこともありまして、4月に学校行事についての通知を、特に入学式については通知をさせていただきました。校長先生方それから教頭先生方もご心配でありましたが、あの時点から好転をしている状況ではないので、例えば、体育館に入

る人数、それから、在校生や来賓等々の参加については4月の段階ではご遠慮いただき、在校生については学校規模に応じて出席ということでもあります。歌唱についてもマスクを外して大きな声で歌い、特に中学3年生は自分達が文化祭で歌った歌を、在校生と保護者の前で歌いあげて卒業していくというのが毎年の卒業式なのですが、それも工夫をしてくださいということでもあります。学校現場は、今回、改めて学校教育課からの通知は不要ですと、各校の判断でということではありますが、教育委員会それから来賓等の参列については今回もご遠慮いただくという方向になるのではないかと考えています。以上です。その他、何かございませんか。

(渡辺委員)

学校判断ではなく、市の教育委員会としては統一したほうが良いのではないかと思うのですがいかがでしょうか。

(教育長)

ガイドラインはお示しをしていますので、統一ができないというのは、例えば、全校児童20人とか40人で在校生を入れるか入れないかというところでいくと、大きい西中学校は在校生を入れてしまうと何百人となってしまうので、ガイドラインとして大体何人ぐらいが1メートル空けてフィジカルディスタンスがとれるとかいうそのガイドラインについては既に4月の段階で通知していますので、それに則ってやってくださいということです。例えば、在校生を入れないでくださいというと、小さい学校は十分に距離をとれるので、校長会としては、4月の入学式と同じような形で安全を確保して実施しますということですのでそのようにさせていただきます。ご来賓の方とか、教育委員会の告示とかいうのは、式全体を短くするという意味もあるし、外部の方というのもあるので、そこについてはご遠慮し、例えば、先ほど言った在校生の部分と歌唱についても、学校によっては卒業式が終わって中庭で歌うというのもあります。なので、そのような事についてはそれぞれ学校で判断していただき、学校の独自性を担保したいというふうに思います。また、2月3月の教育委員会で、お話もあろうかと思うのですが、状況がものすごく好転すれば、例年通りに戻したいと思っています。

(渡辺委員)

はい、わかりました。

(教育長)

その他ございませんか。

(委員 意見なし)

(教育長)

それでは、以上で教育長報告を終わりたいと思います。

3. 協議事項

(教育長)

これより「3. 協議事項」に入ります。今回、毎回報告させていただいている教職員の内申をはじめとする報告及び審議をお願いする協議事項がございません。以上、報告をいたします。

4. 教育施策に係る報告について

(教育長)

それでは、「4. 教育施策に係る報告について」に移りますが、その前に事務局より報告があります。

(教育次長)

それでは、教育委員の皆様にご報告並びにご承認いただきたい事項について説明をさせていただきたいと思います。これまで、ご承知の通り、この4番目の項目につきましては、従前、学力向上についてというタイトルで報告を行って参りました。この背景は、いわゆる平成28年度の学力テストで、臼杵市の子どもたちの学力の結果が県内でもワーストとなるような事態が生じ、教育委員会での必須の報告事項として設定し、学校教育課から様々な学力の向上に対しての報告を行ってきたことから、この学力向上についてというタイトルを従前から行って参りました。その後、今日まで本市の教育にかかる皆様のご尽力によりまして、本市の子どもたちの学力テストでの結果が、毎年、県及び全国平均をほぼ全教科で上回るほどに好転いたしましたことから、今回、このタイトルを教育施策に係る報告ということに改めまして、単に学校教育課のみではなく、社会教育課や文化・文化財課、また学校給食課も関与する中で、それを包含する教育施策という広義なタイトルに変えることによって、委員の皆様には様々な報告をさせていただきたいという思いで、今回タイトルを変えるという判断をいたしました。このことについてご意見をいただければというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

(教育長)

協議事項のタイトルの変更でございます。学力の向上についてという学校教育課に絞っ

た題から、教育委員会全体の教育政策に係る報告についてということに変更したいということでもあります。ご意見ございましょうか。

(委員 意見なし)

(教育長)

よろしいでしょうか。

(委員 承認)

(教育長)

それでは、今後は教育政策に係る報告についてということで、学力向上も含めた報告を行っていくことにしたいと思います。

本日の教育政策に係る報告については、「3つの提言推進拠点校の取り組みについて」学校教育課から説明をさせていただきます。

(足立指導主事)

学校教育課の指導主事をしております足立です。3つの提言推進拠点校の取り組みについて説明をさせていただきます。カラー刷りの横置きの資料を三枚印刷していますのでご覧ください。まず、正式な名称ですが「中学校学力向上対策3つの提言」という長いタイトルがついているのですが、省略して「3つの提言」とか「3提言」というような呼び方をしております。今日は「3提言」ということで通させていただきます。これは義務教育課が作成している資料なのですが、この3提言の内容というのが、3つ提言があります。提言1、2、3というふうにそこに書いているのですが、そもそも何でこういう取り組みが始まったのかというと、大分県の中学校の学力にちょっと問題があると、もうちょっと向上させていかなければいけないということで、平成28年の2月にこういう策定をして、そして29年度、30年度、31年度まで、3提言の3年間の取り組みが今終わったところになります。本年度から新たに3提言の推進拠点校事業ということで再びスタートを切りました。その3提言の拠点校なのですが県内7校、そちらの2の資料に書いていますが、教育事務所エリア毎に1校ずつ、それから大分市で1校、合計7校が指定をされております。大分教育事務所管内では、臼杵市の西中学校がその指定を受けております。西中学校ですが、さっき言ったように、中学校の学力向上を目的にこの3提言の取り組みがスタートしたのですが、3年間の重点校としての取り組みが終わり、大分県の中学校の学力についてもかなり向上の傾向が見られるということで、その3番の拠点校のミッションのところをご覧くださいなのですが、各3つの提言推進拠点校は本提言に基づく各種取り組みの実践・検証・改善を通して学校の組織的な授業改善の推進や学習指導の充実によって、学力向上を図っていく

ということにかなり効果があったということで、今年度から、拠点校としてはさらに若手教員等の人材育成に取り組んでいきます。前の重点校の時にも大事なミッションではあったのですが、学力向上よりもさらにこの人材育成というところに、今後、拠点校の事業にシフトしている部分もあります。それを実践・検証・改善を繰り返していただくと3年間の指定を受けているところです。2枚目が具体的な西中学校の取り組みになっております。3枚目は、これも西中学校の取り組みが非常に良い取り組みをしているということで、大分県の義務教育課が作成しているホームページに、今言った7校の中で、大在中学校と西中学校が取り上げられているのですが、西中学校に関しては2ページにわたって取り上げられております。その資料2枚を平行して、それぞれの提言について説明をさせていただきます。提言の1が、学校の組織的な授業改善による新大分スタンダードの徹底ということです。市教委訪問等でも、委員さん方もご覧になって分かると思うのですが、大体の授業で、課題、まとめ、めあて、振り返りというものが示されて、板書もある程度どの教室に行っても同じような流れで授業をしているのをご覧いただいていると思うのですが、それが新大分スタンダードという授業の1つの流し方のスタンダードであります。それをやることで、支援が必要なお子さんとかにも、UDの視点からも、非常に落ち着いて授業が受けられるのではないかなというふうな、そういう良さがあるということです。それで、そういうふうな授業を改善することでそれを校内研究等でしっかり検証していきましょうという取り組みが提言1になります。それから提言2ですが、学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築ということで、中学校では大体と今まで縦持ちではなくて横持ちという形が主流でした。1人の担当が、自分の学年の教科の授業に行き、3年生担当の先生が、3年生の国語を担当し、2年生の国語の先生が2年生の国語の担当というような流れが主流だったのですが、それを縦持ちということで、国語の先生が学校に3名いた時には、その3名が1年生2年生3年生の1組2組3組それぞれに行くような、そういうイメージが縦持ちになります。その中で、西中に関しては3つの提言推進拠点校教員、それから習熟度別指導推進教員という加配の先生が3提言の指定を受けている関係で配置されておりますので、人員的にもかなり余裕があるということなのでこういうことができているのかなというふうにも思います。その3提言の推進教員等が、やはりミドルリーダーとして、若手の人材育成も含めて取り組んでいるという、こういう縦持ちというのをやっております。でも、縦持ちをすると1学年分の教材研究だけで今まで済んでいたのが、2学年分3学年分の教材研究をしなければいけないということで、それをやってしまうと負担増になってしまうということで、それを補うために強化部会の充実というのがもう1つの柱としてあります。この強化部会ですが、西中については週に1回各教科であります。その中で、どんな話をするかということ、今週の授業の進め方、先生同士で話をしないとなかなか充実した同じ歩みをできません。それから、1番効果があるというふうに思うのが、プリント等の教材のやりとりというのがあります。これが非常に負担の軽減になるのかなと思っています。そもそも何でこういう取り組みをするのかというのが、教員の力量によって子どもの学力差を生まないという考え方から、こういう縦

持ちが効果的ではないかということでスタートしたのになります。少し話が離れますが、来年度大分県の新採用者が199名いるということです。そのうちの大学を出たばかりの新卒者が内103名でして、要は、臨時の経験とかそういうのもない中で、大分県の新しく採用される先生方の半分は去年まで大学生の方が採用されるということです。それから、今55歳以上、要は5年以内に退職をされる中学校の先生方が600名いるということです。ということは、この5年以内に、この600名の先生方が入れ替わり、今言ったような経験の浅い先生方が採用されるという、そういう状況により教育界に大きな人材育成の必要性があるということになって、それならその新卒の先生が1つの学年を全部任された時に、もちろん力のある先生もいるとは思いますが、教員の力によって学力差が生まれ、この学年はできるけど、こっちの学年はできないとか、そういうことにならないように今言ったような縦持ちのシステムをうまく使います。次は提言の3になりますが、生徒と共に創る授業の推進ということであります。この3提言の3つ目は、もう西中学校だけではなくて、臼杵市中ほとんどの学校で、これまでの3年間の取り組み等を、西中学校から他の学校にも広がっていったようなところがあります。生徒と共に創るアンケート、これを取ってない学校というのはもうほとんどありません。子どもの声をしっかり反映させて、それを授業改善につなげていくという流れができております。それから、それを取るだけではなく、子ども達自身も自分達の授業を振り返るといふ、そういう動きもあっております。子どもが自分達で、委員会活動等を通して授業を自分たちで創っていき、その子ども達の声を先生達も反映させながら授業改善に取り組んでいくという、これが提言の3つ目になります。西中学校で研究授業等があると、そこのホームページの資料の右下にあるように、学習委員の子ども達が必ず参加をしてくれます。今日の自分達の授業はこうだった、こういうふうなところが良かったし、この点が課題だと思えますとか、こういうふうなことを次の時間には学習したいなというような子ども達も目的・目標をしっかりとって授業に取り組んでいるという様子が伺えます。この3提言の西中の取り組みというのは、今言った7校の中でもすぐ秀でている取り組みということで、県から資料等を提示してくださいとかいろいろな会でも西中の先生に質問が飛ぶような状況にあるのですが、もう一つ、西中の取り組みが臼杵市内の取り組みになっているというのが1番最後のページの資料になります。SD研修の実施ということで、西中学校は若手の概ね経験が10年未満の先生方が11名いるのですが、その若手の先生方をミドルリーダーが中心になって、3つの班に分けて人材育成のシステムというのを作っております。それぞれの先生方の困りに応じて、3つのグループに分けて、SD研修（Self Development研修）というのを実施しております。それに、西中だけの取り組みというふうにならないように、他に、東中学校、北中学校、南中学校、野津中学校とありますが、その人材、若手概ね10年未満の先生方が15名いらっしゃるのですが、その15名の先生方も西中の研修に参加できるような体制を臼杵市はとっております。そのつなぎ役として、昨年まで西中にいて今は野津中学校にいる授業力向上アドバイザーをしていただいている山村先生とか、その橋渡し役として、他の学校の若手の先生方も西中

の研修に参加できるような、そういうシステムを作って、他の学校からも西中に3人、この3提言を受けているということで加配の先生もいますので、研修の充実を西中はやっていくというふうにミッションがあります。なので、恩恵を西中だけのものにせず、臼杵市全体に還元できるような形をどんどん広げていって、臼杵市は若手の人材育成をしていこうという、そういう動きを今年スタートしたところです。それを、来年、再来年と3年間かけて構築をしていくという事業がありますので、今日は委員の皆様こういうふうな取り組みをしているのだということをお話させていただきました。以上です。

(教育長)

3つの提言推進拠点校の取り組みについて説明がありましたが、質疑等ございませんか。

(佐藤委員)

私、西中のPTAにいたものなので、1つ質問させていただきます。29年度から西中が県内8校の中の1校で、重点校という指定をされて、縦持ち、教科部会を開いて、授業改善、研修や研究で人材育成と、本当に先生方が大変だなと思ったのを覚えています。大分県、県内中学校120前後ぐらいはあるかと思うのですが、なぜこの8校、重点校が8校だったのですけど今拠点校が7校に減っているのです、1校減った理由がわかれば教えていただきたいです。私、この重点校というのは、3年毎に他の学校に県下で回ると思っていたのですが、また西中学校ってことで、県の学力低下ならいろいろな学校でやった方がいいのかなと思います。また何年か拠点校として西中学校が続いていくのかというのが知りたいのと、重点校と拠点校の大きな違いを教えていただけたらと思います。以上です。

(足立指導主事)

8校から7校になったというのは、大分市が2校、重点校の時に指定を受けていたのですが、その中の1校がなくなり、その事情については規模が縮小したわけではないと思うのですが、詳しくは存じ上げておりません。3年間、この拠点校事業というのが続いていくということです。重点校から拠点校に変わったということについては、重点校の時には、臼杵市もそうなのですが、西中の取り組みだけに留まってしまっていたようなところがありました。ここを拠点として、今臼杵市がやっけいこうとしているような周りの学校にも人材育成のシステムとか、この3提言の良さを広げていくというのが、この拠点校事業に変わった時に私達にもそういう意識でどんどん周りの学校にもこの良さを広げていき、それを全てしてということではなく、学校規模に応じたとかいう言葉もこの中にありますので、東中は東中なりに西中の取り組んでいる3提言の良さを生かしてくださいと。野津中学校は野津中学校で、この良さを自分達の学校なりにやっけいくださいという、そういう西中の良さを他の周りの学校にも広げていくということになっています。3提言の結構良いことばかりを言ってきたのですが、他の拠点校6校が西中みたいな取り組みができていくかという

と、実はまだまだ課題が結構あります。ちょっと3年間ではやりきれなかった、形に十分で
きなかったというところもあって引き続きの指定になったのかなというふうには感じてお
ります。

(佐藤委員)

ありがとうございました。

(教育長)

重点校から拠点校への大きな違いは、プラス人材育成のミッションが大きく関わってき
たというか、その部分が大きいかなというふうに思っていますし、重点校をそのままスライ
ドしているのですが、先生方は異動しますので、西中学校でいうと重点校を受けていた3
年間でほぼ先生方が入れ替わりましたから、重点校もしくは今後3年間の拠点校で経験
をした先生方は市内もしくは県内の学校に異動していきますので、またそこで頑張ってい
ただけということ、学校規模も、やはりある程度の規模がないといけないということで指
定校が変わってないという現状と思っています。これは、面の取り組みとした時に、点の取
り組みとして若手の教員の人材育成については、先ほど足立指導主事が言いましたように、
中学校では野津中学校の山村教諭、それから小学校では校長先生を退職されました桑原
先生が臼杵小学校に拠点を置いて、今20数名の若手の先生方の授業を見ていただいて、授業
研究をし、それをまたフィードバックするという点の動きもしていただいています。

(渡辺委員)

人材育成の上では大変素晴らしい取り組みだと思えますが、その前に、まず人員の確保が
先ではないかと思えます。現在でも臨時教員の割合が結構高く、その方がまた次年度も引き
受けていただけるかというのも未確定なところあり、定員が足りてなくても年度をスター
トせざるをえないという状況があると思うのですが、年度当初、先ほど指導主事の先生がお
っしゃっていた199名という人材が確実に確保できるのかどうか、しかも199名の他
に加配教員がいるということになります。プラスアルファの人材が必要なことから、早くの
取り組みが事務所とか県で無理であれば、市の方でもそういう人材を見つけるというこ
とを早急にやっけないと年度が始まってしまってどうにもならないという状況が起きて
くるのではないかと思えます。なので、人材をまずはきちんと確保した上で、こういう取
組みがなされなければ、せっかくの良い取り組みが台無しになってしまうのではないかと
思います。是非、人員の確保をお願いしたいと思えます

(教育長)

ありがとうございます。今日、中教審の答申の中にも、文部科学省は、人材確保について
学校現場の多忙も背景に全国的に教員の採用倍率が低下し、特効薬が見つからないのが現

状だというふうにかかれていました。渡辺委員のおっしゃる通りで、人材の確保をしないと年度当初、学校はスタートできないという状況であります。臼杵市については、本年度スタート時点では、ほぼ全員埋まっていたのですが、途中、少し体調壊される先生とか、怪我をされる先生とかで、少し学校現場にご不便をかけた部分もありますので、これは最優先で取り組んでいきたいというふうに思っていますし、また来年、先ほどちょっと冒頭でお話しました少人数のところについては、臼杵市独自の加配教員でありますので、この確保についても早急にやっていきたいというふうに思っています。今回、特に本年度は、大量退職されますので、あまり早くに引退されずに協力してくれないかという話をしたいなと思っておりますが、今、再任用の希望はほぼいない状況でありまして、1回休みたいということになります。教育委員の先生方のお力と知恵も借りながら、人材確保については余分に予算が確保できそうなので、何とか子ども達のために一緒に汗をかいていただく先生方を探していきたいというふうに思っています。ありがとうございました。また、お力添えをよろしく願います。その他、教育政策に係る報告についてよろしいでしょうか。

(委員 意見なし)

5. 教育予算について

(教育長)

それでは、教育予算についてですが、事務局からの報告事項はございません。委員の皆様方で教育予算についてのご意見等がありましたらお聞きしたいと思います。

(委員 意見なし)

6. その他

(教育長)

それでは、「6. その他」に入ります。その他についてですが、事務局からの報告事項はございません。委員の皆さん方から提言等はございませんか。

(委員 意見なし)

(教育長)

それでは、その他は終わりたいと思います。全体的なことでも構いませんので、何かご意

見等ございましょうか。終わってよろしいでしょうか。

(委員 意見なし)

(教育長)

それでは、これもちまして1月定例教育委員会を閉会いたします。

会議録署名委員

会議録署名委員

会議録作成者
